

遠山上不移きこゑひ宮部八鴻をつみだそとて。虎脚巖山のしゆより。乃
の廣さ三四間小岩石とて築揚あひ雪と所ばんこを所互小相殺ふまき御
下隣ありて准備嚴重なりむ也。油井城櫓く氣力を厚い。忙熱と
して居たるる茲小多禽家孔長臣山清長門にち吉家の大獄の本陣小
參よ。義系小東もたゆう。自軍小夏心の者ありて諸勢の心一致うち
ぞ。所給軍もたゆびこなまが、益姫の長陣。却て焚ひの基をもべ。志らず
早々軍を收め。浙済國あるこそ引要らきと諫諭一々を義系承て
歎詠勢ひ當日小十信もてくらればよも安くと帰還をほじ。又をうる
吾軍場らば浅井一隊をして防戦ゆく。罪免みよ。と引き取れりてか
わく。とりと山清累て稟さく。そきあへ一の手附ひこの方をうる歸らせば。
長政那危うべど信長偕小帰陣ひときを。瓦小とひと引退ぐ。これ

西金の謀らん。原信長ハ勇氣烈しく。戰をもとてあめくと對陣をもぎた
將からむ。そき小方儀まで掌斎もせざる。ハ軍を好みぬりのうべ。遠方隊
陣をも响く。織田家も定めて帰國せん。既小信長本陣を。山との城小
搬へ得く。麓の小屋とも空虚う。困者を遣て小屋小火を放燒起る
信長か。も對陣せん。そきは。おもひ。かく。信長か。も。おもひ。かく。信
長か。も。北風烈しく。被と計りを行ひ。と實がをが。義系。を。實が。奉立烈
風の夕と待多が當天も九月十六日申酉の頃より北風起り。浙済と
て小雨さへそがう。半一時。己未完竟の時。己未乗き。然がま器を攬
んでり。車を謀らむせんと思ひ達上村内藏助竹村三助。遠兩人の敵津
小人。オと澤の車龍胤の像。彼候からむ縛らう。と密小兩人を遣